

## (エ) SIMulation おおつち

SIMulation おおつちとは、大槌町で起きている地域課題に対して、解決策を構想し提案する活動である。生徒が解決策を構想する地域課題テーマは、第9次大槌町総合計画の6つの柱に基づき、大槌町議会に設定していただいた。内容は下記の通りである。

No	高校生が解決策を構想する地域課題テーマ
1	大槌の資源を活かし、地域経済の好循環を図るための施策を考えよ
2	地域食堂（子ども食堂）を通じた食育（健康）の推進に関する施策を考えよ
3	郷土芸能を活用した、交流人口拡大のための施策を考えよ
4	三陸鉄道の利用者数増加に向けた施策を考えよ
5	ふるさと納税で多くの寄付を集めるための施策を考えよ
6	震災の体験を風化させず、次世代に継承するための施策を考えよ

学習は以下の順で行った。

- a 大槌町議会によるテーマ説明会
- b 各テーマに関する町内の現状を調査する（大槌町内フィールドワーク）
- c 町外を視察し、各テーマに対する解決策の先進事例を学ぶ（ラーニングジャーニー）
- d 課題が生まれている原因を探る、課題の検証に向けた調査
- e 解決策を構想する
- f 構想した解決策を発表する（課題解決のためのアイデア発表会）

## ◆授業の流れ

No	日程	内容
1	9月30日(金)	オリエンテーション
2	10月11日(火)	大槌町議会によるテーマ説明会
3	10月18日(火)	フィールドワーク事前学習 (テーマに関する調べ学習、質問出し)
4	10月25日(火)	
5	11月1日(火)	
6	11月4日(金)	大槌町内フィールドワーク
7	11月8日(火)	ラーニングジャーニー事前学習 (視察先に関する調べ学習、質問出し)
8	11月22日(火)	
9	11月29日(火)	
10	12月5日(月)	ラーニングジャーニー(町外視察)
11	12月6日(火)	課題の検討、課題解決アイデアの考案
12	12月13日(火)	
13	12月20日(火)	

14	1月17日(火)	解決アイデアの構想
15	1月24日(火)	
16	1月31日(火)	
17	2月14日(火)	発表に向けた資料作成、発表練習
18	2月21日(火)	
19	2月22日(火)	
20	2月23日(木・祝)	課題解決アイデア発表会 (グループごとに構想したアイデアについて大槌町議会議員に発表)

a 大槌町議会によるテーマ説明会

10月11日(火)に、大槌町議会の阿部俊作議員、菊池忠彦議員、澤山美恵子議員、芳賀潤議員からテーマに関する説明を行っていただいた。生徒はそれぞれのテーマに関する基礎的な情報や、大槌町の現状についての理解を深めた。その後、生徒自身が取り組みたいテーマの希望調査を行い、調査の結果をもとに各テーマに10名ずつ振り分けた。10名をさらに5名ずつの2つのグループに分け、活動がスタートした。



b 各テーマに関する町内の現状を調査する(大槌町内フィールドワーク)

各テーマに関する町内の現状をより深く理解するために、大槌町内でのフィールドワークを行った。フィールドワークは、前半に大槌町役場職員へのヒアリング、後半にテーマに関連する施設や住民を訪問する形式で実施した。

No	分野	役場ヒアリング担当課	訪問先
1	大槌の資源	産業振興課	桃畑養殖場 (大槌復光社協同組合)
2	子ども食堂	健康福祉課	つつみこども園 芳賀カンナ氏
3	郷土芸能	教育委員会学務課	大槌町郷土芸能保存団体連合会 東谷一二三氏 大槌町観光交流協会 服部真里氏

4	三陸鉄道	町民課	三陸鉄道株式会社 三浦芳範 氏 大槌町観光交流協会 平賀聡 氏
5	ふるさと納税	産業振興課	有限会社魚よし 平野将 氏 MOMIJI 株式会社 兼澤幸男 氏
6	震災伝承	協働地域づくり推進課	一般社団法人大槌新聞 菊池由貴子 氏

#### 【当日の様子】

生徒たちは大槌町役場を訪問し、テーマの担当課から大槌町の行政事業について説明を受けた。また、事前に用意した質問をもとに生徒たちからのヒアリングを実施した。活動の後半では、テーマに関連する施設や団体を訪問し、ヒアリングや体験活動を行った。



#### 【生徒の感想】

- ・ふるさと納税にはメリットもある一方で、返礼品目当てでの納税者が増え、納税者の住む地域の市税が減るといった問題点もあるということが分かった。大槌町のふるさと納税をもっと知ってもらうためにはどうしたらいいのかが課題だと知った。
- ・今日改めて、郷土芸能を継続していく大切さについて知れました。また、他の地域の人に大槌の郷土芸能の魅力を伝える大切さを知り、その伝える役目として若い世代の力が必要だと思います。
- ・大槌にこんなに大きい鮭の養殖場があることを初めて知ってすごいと思った。他にも鮭の生産量を増やし、大槌の主力産業にしていくところが特に興味深かったです。様々な努力があることを色々聞くことができ詳しく知ることができました。

c. 町外を視察し、各テーマに対する解決策の先進事例を学ぶ（ラーニングジャーニー）

各テーマに関する課題解決のための先進的な事例を学ぶために、大槌町外の自治体や民間団体を訪問し、調査活動を実施した。最終的に町への提案アイデアを考えるにあたり、大槌町に活かせる知見を持ち帰ることを目指した。訪問するエリアは、いずれも各テーマに対して先進的な取組を行っている、岩手県の大船渡市、宮古市、花巻市、陸前高田市、釜石市と、宮城県の気仙沼市に設定した。

◆訪問先

No	テーマ	行き先	場所・内容
1	大槌の資源	大船渡市	【AM①】 サン・フィッシュ釜石 【AM②】 旧甫嶺小学校/三陸アクティブ 【PM①】 越喜来波板海岸/スポアバッグづくり・藻場観察
2	子ども食堂	宮古市	【AM①】 宮古市社会福祉協議会くらしネットみやこ 【AM②】 子ども食堂「しおかぜダイニング」 【PM①】 校内/子ども食堂メニュー調理体験
3	郷土芸能	花巻市 大迫町	【AM①】 神楽の館見学 【AM②】 大迫総合支所/大償神楽保存会 【PM①】 大迫高校/学芸部神楽班との交流
4	三陸鉄道	気仙沼市	【AM①】 気仙沼市役所/地域政策課 【AM②】 交流プラザ/気仙沼市議会 今川悟氏よりお話 【PM①】 大船渡線 BRT 及び三陸鉄道乗車
5	ふるさと納税	花巻市 大迫町	【AM①】 花巻市役所/定住推進課 【PM①】 大迫高校/ふるさと納税探究生徒との交流 ぶどう農家鈴木寛太氏よりお話、体験活動等
6	震災伝承	陸前高田市 釜石市	【AM①】 東日本大震災津波伝承館見学 【AM②】 高田松原津波復興祈念公園/ 陸前高田市都市計画課より案内 【PM①】 いのちをつなぐ未来館/館内見学・語り部

◆当日の様子

グループごとにバスに乗って現地へ行き、1日を通して各地域の課題解決の取組を視察した。現地では午前と午後に渡り2～3つの事業所を訪問し、お話を聞いた。

各視察先では体験活動等を実施していただき、楽しみながら活動に参加することができた。





#### ◆生徒の感想

- ・BRTについて熱心にお話されていたのが印象的でした。BRTのメリットやデメリット他、鉄道がほしい理由などを教えてくださいのおかげで、三陸鉄道とBRTの比較をすることができました。
- ・花巻市でふるさと納税に関して行っているお話を聞いて、大槌でも取り組みそうな活動があると感じました。花巻に比べたら大槌はまだですが、大槌にしかない食べ物や返礼品を存分に活かしてさらなる町の活性化に繋がりたいと思いました。
- ・子供食堂を運営していく上で、試行錯誤を繰り返して改善していくが本質は絶対に曲げないという言葉がとても印象的でした。宮古市は連携を大切にしている、地域全体のつながりを感じる事が出来ました。
- ・ポアバッグを作って、実際に海に落としてみて、くくりつけるところなど工夫がたくさんされていてすごかったです。肉眼でも見れるくらいウニがたくさんいてびっくりしました。体験を交えて自分の知識を深めることができよかったです。

#### d 課題が生まれている原因を探る、課題の検証に向けた調査

フィールドワークを経て、各グループがテーマに対する「現状」と「理想」を掲げ、そのギャップから生まれている「課題」を設定した。設定した課題が本当に起きているのかを検証するため、再度役場職員に質問をしたり、身の回りでのアンケート調査を実施したりしながら活動を進めた。



e 解決策を構想する

上記を踏まえ、設定した「課題」から、大槌町で「すでにできていること」と「まだできていないこと」を整理した。「まだできていないこと」を参考に、解決策を構想し、まとめる活動を行った。

その後、発表会に向けた資料の作成や発表練習を行った。資料の作成はすべて Microsoft teams を活用して、生徒全員が共同編集できる形式で進めていった。



f 構想した解決策を発表する（課題解決のためのアイデア発表会）

各チームが構想した解決策のアイデアを、大槌町議会議員や地域住民に対して発表した。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で校内のみでの発表会となったが、今年度は、大槌町議会をはじめ、地域に対して発表をすることができた。

◆発表会概要

日 時：令和4年2月23日（木・祝）10：00～11：40

場 所：大槌町文化交流センター おしゃっち

テーマ：「大槌町の地域課題に対する解決策のアイデアを発表する」

◆当日の流れ

10：00～10：20 開会・学校長並びに大槌町長挨拶（多目的ホール）

10：20～10：45 発表ターン1 ※4会場に分かれて実施

10：45～11：10 発表ターン2 ※4会場に分かれて実施

11：10～11：30 発表ターン3 ※4会場に分かれて実施

11：30～11：45 大槌町議会より高校生へメッセージ（多目的ホール）

◆当日の様子

これまでのフィールドワーク等で学んだこと及び構想した解決策のアイデアの提案を、PowerPoint にまとめて10～15分程度で発表した。大槌町議会の議員10名が出席して生徒たちの解決アイデアを聞き、質問応答を行った。



◆発表内容・解決アイデア一覧

No	テーマ	班	解決アイデア名	概要
1	大槌の資源	A	大槌 S-1 グランプリ	大槌サーモンへの知名度を上げ、売上の向上を目指し、大槌サーモンの新しい食べ方を提案する料理コンテストを考えた。
		B	Life below water ～ダイバー育成チャレンジ～	大槌の海の資源を守るために、磯焼け対策に携わるダイバーの増加を目指した高校生・大学生向けのダイバー育成企画を考えた。
2	子ども食堂	A	ちるどれんめい (Child 連盟) ～築いていこう共生の輪～	支援を必要としている家庭を把握し、各子ども食堂につなげていくために、子ども食堂運営団体と行政が情報交換できる場を考えた。
		B	おおつちこども未来 レストラン	子ども食堂が「楽しめる場」だと認識してもらえるよう、高校生が中心となって遊びや勉強、食育等の機会を提供することを考えた。
3	郷土芸能	A	交流人口を増やせ！ ちょこっと Local performing arts 体験ツアー	町内の各郷土芸能団体にお試しで参加し、数日間の練習を重ね、最終日に「かがり火の舞」で披露する体験型合宿を考えた。
		B	子どもたちに届け！ 郷土芸能の魅力 in 公民館	郷土芸能団体に所属していない小中高生を巻き込んでいくことが必要だと思い、各地区の公民館を回って PR する方法を考えた。
4	三陸鉄道	A	Illumination Train Night Project	車を持っている人でも三陸鉄道に乗車したくなる機会を目指し、乗車することで楽しめるイルミネーションイベントを考えた。



		B	Passenger Friendly 三陸鉄道活性化大作戦	利用者に優しい三陸鉄道にするために、乗車料金をバスと同等にしつつ、車内販売等を行うことで差額分を補う方法を考えた。
5	ふるさと納税	A	私達しかつけない 付加価値	ふるさと納税をした人に「大槌を応援したい」と思ってもらえるように、町民みんなで作り上げる返礼品のパッケージデザインを考えた。
		B	唯一無二の大槌を全国へ！	大槌の返礼品が全国で話題になることを目指して、ユニークな新しい返礼品をつくり、SNS等で面白く発信することを考えた。
6	震災伝承	A	見えない震災遺構 ～QRコードで伝え、残す～	震災遺構を何かしらの形で残していきたいと考え、被災した建物があった場所にQRコードを設置し、当時の様子を伝える方法を考えた。
		B	大槌の震災を 五感で伝える絵本	震災を知らない世代の子どもたちに当時の様子を分かりやすく伝えていくために、五感で伝える仕掛け絵本を考えた。

#### ◆生徒からの感想

- ・大槌の町は好きだけれど、大槌の魅力を自分の言葉で相手に発信する機会はこれまでありませんでした。SIMおおつちの活動を通して、たくさんの方々のお話を聞く中で、大槌の魅力は、町全体を巻き込みながら「みんなで良い町を作ろう」という意識を持っている人たちが多くだと考えました。そして、大槌をより良い町にしていくために、自分たち高校生にもできることがあるのだと感じました。
- ・SIMおおつちが始まる前までは、町の課題は他人事だと思っていましたが、取り組んでみると決して他人事ではなく、自分も当事者の一人なのだ実感しました。自分たちの考えたアイデアを議員の方にも評価してもらえて、達成感を感じました。
- ・これまで町を歩いていて三陸鉄道が走っていても何も感じることはありませんでしたが、活動を行うごとに三陸鉄道を見かけると「今日は人が多いな」「鉄道の外装が変わっているな」など意識することが多くなりました。町の良いところを見つけられるようになって良かったです。
- ・半年間、町の課題に向き合ったことで、興味を持つことができたり、他にも課題がないか、どうしたら解決できるのかを考えたいと思えるようになりました。地域の方、町議会の方に発表した時に、「ぜひ実現してほしい」という前向きなコメントをいただくことができ嬉しかったし、頑張ってきて良かったなと思いました。

#### イ 2年生の取組

2年生では、生徒各自が興味関心から取り組みたいテーマを設定し、問いを立てながら検証アクションを繰り返していく「マイプロジェクト」に取り組んだ。

4、5月は、自分の興味や身の回りの気になることを模索しながら、個人でテーマを設定

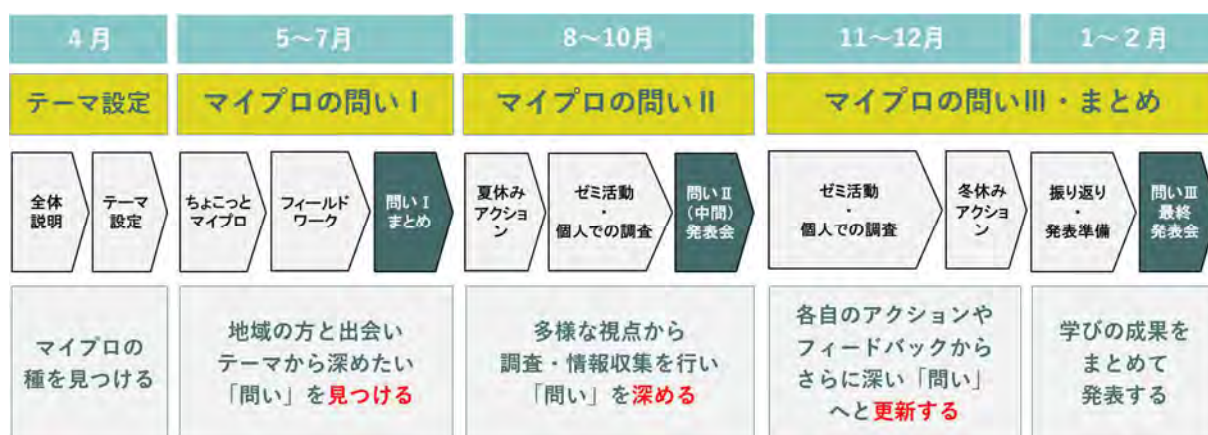


した。6月からは、各自のテーマに関する問いを立て、検証アクションを実行した。フィールドワークを行い、生徒のテーマに関連する地域の方からの協力を得ながら活動を実施した。

8月以降は、生徒や教員が5つのゼミに分かれて、個々で進めるプロジェクトを共有・相談するコミュニティをつくりながら授業を展開した。また、オンラインを活用し他県の高校生とお互いの探究の進捗状況を共有し合うオンライン探究交流会（6月、7月、11月、2月）や、校内での中間発表会（10月）、地域での最終発表会（2月）も実施し、自身の学びを振り返り、他者に向けて発表する機会を定期的に設定した。

プロジェクト活動の指導にあたり、認定NPO法人カタリバのスタッフ4名と大学生インターン2名に協力をいただいた。

1年間を通した授業の流れは以下の通りである。1回の調べ学習だけで活動を終わらせずに、年間を通して問いを更新し続けることを目的としてカリキュラムを設計した。



#### (ア) テーマ設定（4月）

##### ◆気になること探しワーク・テーマの設定

自分の過去の経験から印象に残った出来事を振り返ったり、新聞や広報誌を見て気になる記事を探したりしながら、テーマに繋がりそうなキーワードを書き出した。その上でプロジェクトのテーマとそれに関連する3つのキーワードを個人で設定した。

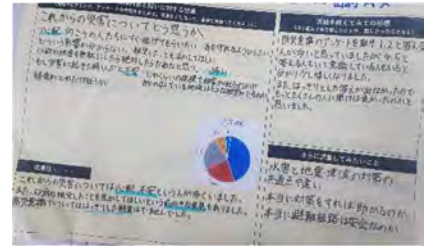
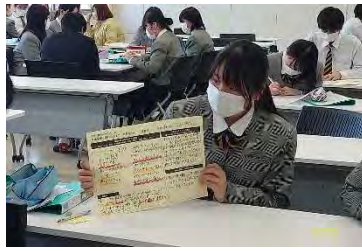
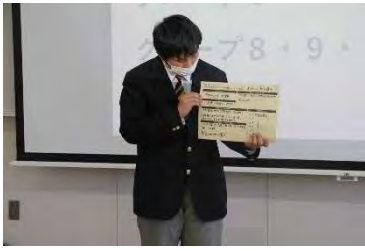


#### (イ) マイプロジェクトの問いⅠ（5月～7月）

##### ◆“常識を疑う問い”から、ちよこっとマイプロを実行しよう

「本当に（テーマ）は〇〇なのか？」という“常識を疑う問い”を設定した。

“常識を疑う問い”を検証するために、1週間程度で実行できるアクション（ちよこっとマイプロ）を計画し各自がアクションを実行した。



【生徒から出てきた問い】

- ・本当に、地域のつながりは薄れてきているのか？
- ・本当に、障がいを持った方と関わるのは難しいのか？
- ・本当に、歯医者さんを怖がる人は多いのか？
- ・本当に、努力をすれば自分の能力は向上するのか？

◆ “アイデアを広げる問い” からプロジェクトの未来を考えよう

「どうしたら〇〇できるのか？」という“アイデアを広げる問い”を設定した。ブレストカードを使い、問いに対するアイデアをグループで出し合った。



【生徒から出てきた問い】

- ・どうしたら、海洋生物の生態系を守ることができるのか？
- ・どうしたら、防災を自分ごととして捉えてもらえるのか？
- ・どうしたら、地域の活動に若い人が参加するようになるのか？
- ・どうしたら、集中力を継続することができるのか？

◆第1回オンライン探究連携授業（6月7日）

小規模校4校がオンラインで集まり、互いの探究活動を共有しながら学びを深めていく「オンライン探究交流会」を実施した。本校の生徒60名と、山形県立小国高等学校生徒25名、栃木県立足利特別支援学校の生徒3名、熊本県立小国高等学校の生徒47名が参加し、オンラインビデオ通話を活用して交流した。

1回目の交流会では、「聴く姿勢を身につけながら、お互いの共通点や違いを知る」をテーマ

に、各校の紹介や生徒同士のアイスブレイクなどを行った。



#### ◆第2回オンライン探究連携授業（7月15日）

2回目の交流会では「ロールモデルとの出会いを通して“マイプロジェクト”をもつ楽しさを知る」をテーマとした講演会を実施した。ロールモデルとの出会いを通して、マイプロジェクトを進めていくイメージを深めることができた。

講師は自分のテーマを仕事につなげている社会人や高校時代にマイプロジェクトに取り組んだ現役大学生を中心とした13名に参加していただいた。

#### 【テーマ・講師一覧】

No	テーマ	講師名（所属）
1	健康・スポーツ	板谷悠佑氏（野崎徳洲会病院）
2	I T	今川哲矢氏（株式会社 ti）
3	メディア	加藤聡氏（日本テレビ放送網株式会社）
4	観光	佐々木文人氏（株式会社 KNOT WORLD）
5	探究・キャリア	信岡亮介氏（株式会社アスノオト）
6	映像制作	松岡弘明氏（カミハグプロダクション株式会社）
7	行政・まちづくり	和田大志氏（熊本県庁）
8	教育・地域活性化	井下友梨花氏 （熊本県益城町教育委員会・地域おこし協力隊）
9	自然科学	落合真弘氏（大学生）
10	デザイン	後田将人氏（大学生）
11	表現	中島幸乃氏（大学生）
12	地域活性化	日向風花氏 （大学生・尾鷲市地域おこし協力隊）
13	地域医療	總山萌氏（株式会社 Community Nurse Company）





◆マイプロジェクト・フィールドワーク（7月20日）

各自の探究活動を進めていくにあたり、各テーマに精通した地域の大人と出会うことを目的として「マイプロジェクト・フィールドワーク」を実施した。

生徒のテーマから 19ヶ所の訪問先及び講師を設定し、生徒たちが各講師のもとに出向いて、プロジェクトの進め方や今後の方向性などについて相談をした。また、遠方の講師については、オンラインで実施した。



【テーマ・講師一覧】

No	テーマ	講師名（所属）★はオンライン参加
1	対人関係	南景元氏（大槌町スクールソーシャルワーカー）
2	アート・デザイン	内海沙樹氏（おらがおおつち夢広場・デザイナー）
3	環境	佐々木洋介氏（浄土ヶ浜ビジターセンター）
4	栄養	菊地範子氏（大槌町食生活改善推進員団体連絡協議会）
5	防災	平野圭氏（大槌町防災対策課）



6	地域コミュニティ	越田実紀子氏・岩間裕歌氏（大槌町協働地域づくり推進課）
7	写真	小笠原佑樹氏（大槌町協働地域づくり推進課・広報担当）
8	福祉	渡辺賢也氏（大槌町社会福祉協議会）
9	観光	小國夢夏氏（大槌町観光交流協会）
10	宗教・哲学	大萱生修明氏（大念寺住職）
11	スポーツの魅力向上	河合秀保氏（河合商店代表・花道プロジェクト企画者）
12	障がい・福祉	東梅麻奈美氏（地域共生ホームねまれや）
13	医療・看護	看護師のみなさま（植田医院）
14	歯科	歯科衛生士のみなさま（近藤歯科医院）
15	スポーツの技術向上	佐藤陸氏（トレーニングジムKing8）
16	ファッション	中村雅人氏（TKMSBASE代表）
17	海洋生物	大土直哉氏（東大大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター）
18	音楽	臺隆明氏（槌音プロジェクト代表）
19	キャンプ	芳賀博典氏（吉里吉里公民館館長・ボーイスカウト経験者）
20	国際交流	松永いずみ氏（吉里吉里国スタッフ・青年海外協力隊経験者）
21	動物	鈴子真佐美氏（保護猫アンドゥ）
22	美容	石井恵里奈氏（美容師）
23	特撮・アニメ	有坂民夫氏（シネマ・デ・アエル代表）★
24	文学	帆苅基生氏（弘前大学教育学部教授）★
25	キャリア	星野七海氏（一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー）★
26	起業	古川真愛氏（大学生・マイプロジェクト経験者）★
27	その他	竹入悠渡氏（大学生・マイプロジェクト経験者）★

◆夏休み中のアクション計画（7月）

フィールドワークでのアドバイスを活かし、夏休み中のアクションを計画した。

（ウ）マイプロジェクトの問いⅡ（8月～10月）

◆ゼミ活動

夏休み明け以降は、授業時間等を使い各自で探究活動を進める体制に入った。町内の協力者のもとへ足を運んで調査活動を行う姿や、PC・タブレットを使ってオンラインインタビューを行う姿など、外部の方々に協力を求めながら活動を進める様子が見られた。

生徒のテーマや教員の専門分野をもとに5つのゼミをつくり、ゼミごとに各自の探究活動の進め方を相談し、定期的に生徒同士が互いの進捗状況を共有した。



◆マイプロジェクト中間発表会（10月26日）

問いⅠ、問いⅡ期間のまとめとして、中間発表を実施した。生徒各自が、半年間実施してきた活動の進捗とそこから得た学びについてプレゼンテーション形式で発表した。



◆第3回オンライン探究連携授業（11月2日）

7月の2回目の交流会に引き続き、3回目のオンライン交流会を実施した。4校の生徒が関心の近い生徒同士で小グループをつくり、各自が探究活動を紹介し意見交換を行った。それぞれが、自身の活動を振り返るとともに、今後の探究を深めるヒントを得る機会となった。



(エ) マイプロジェクトの問いⅢ・まとめ（11月～2月）

◆活動の振り返り・まとめ（1月）

11月以降も、引き続きゼミごとに分かれて生徒が各自で探究活動を進めていった。

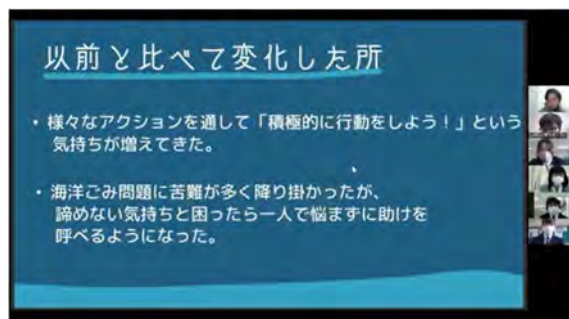
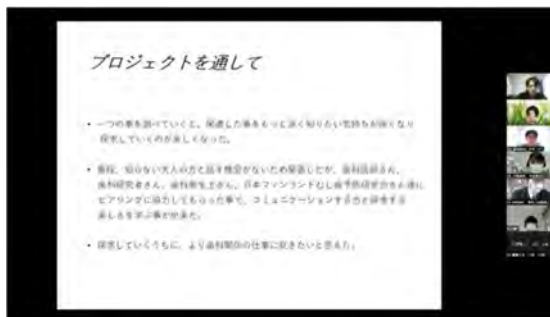
冬休み明けの1月以降は、ワークシートを活用しながら、これまで立てた問いやその検証アクションを整理するとともに、活動を通して得た学びについて振り返る機会をとった。



◆第4回オンライン探究連携授業（2月17日）

11月の3回目の連携授業に引き続き、4回目のオンライン探究連携授業を実施した。1年

間のまとめという位置づけで、前半は4校の生徒がそれぞれ小グループをつくり、これまで実施してきた活動の内容や、そこから得た学び等について各自が5分間で発表した。後半は、①1年間の探究を振り返るコース、②今後に向けて探究テーマを更に深めるコースに分かれて小グループをつくり、生徒同士で意見交換を行った。



#### ◆最終発表会（2月23日）

最終発表会は町の文化交流センターで実施し、これまでに生徒の活動に関わった方々をはじめ、保護者、地域住民、教育関係者等、約230名の方に来場していただいた。生徒は、各自が1年間の探究活動の成果と学びについてプレゼンテーションにまとめて発表した。



#### (オ) プロジェクト実践事例

##### ◆分野・活動内容一覧

No	分野	発表タイトル	活動内容
1	福祉・教育	誰も取り残されない未来の教育環境の在り方	HSP傾向にある自身の特性をきっかけに、授業に集中できない生徒の状況を調査し、学校教員との対話を通して、誰もが集中できる授業環境づくりを行った。
2	対人関係	コミュニケーション能力はどうやったら上がるのか?	周りの人と上手く人間関係を築けるように、コミュニケーション能力を向上させるための実験に取り組んだ。
3	アニメ	実写作品の問題点と改善策	漫画の実写化作品をいくつか実際に見て、その傾向と問題点を分析し、改善策を自分なりに検討した。
4	キャリア	文学、折り紙、好きなものについて	1つのことを継続的に考え続けることが苦手という自身の特性から、興味のあることを広く浅く調べてみるという実践を行った。その過程を通して自身の今後のキャリアに検討した。



5	美容	メイクをする事で自信が出るのか？	アンケート調査や、論文を用いた文献調査を通して、メイクと自己肯定感の関係性について考察した。
6	スポーツ	長距離走で記録を伸ばすには何が必要なのか？	自身の運動能力の向上と、努力することの価値を知ることが目的として、ランニング等のトレーニングを継続的に行った。
7	スポーツ	バスケットボールの魅力伝えるには	地域のバスケットボール人口を増やすための方法を、バスケットボールに関わる地域の方へのヒアリングを通して模索した。
8	医療・教育	ど田舎 JK のキャリア教育	田舎住みが原因でロールモデルに出会えず、進路選択に必要な職業イメージが湧かないという自身の課題を解決するために、オンラインを活用した職業インタビューを継続的に実施した。
9	音楽	曲作り	歌が好きという思いから、これまで取り組んだことがなかった作詞・作曲活動に挑戦し、オリジナル曲を 10 曲ほど制作した。
10	音楽	ベースの技術向上	ベースの技術を向上させるために、実際にバンド活動を行っている方へのヒアリングを行い、練習に励んだ。また、学校内の友人を誘って実際にバンドも結成した。
11	服・表現	ファッションは自分を変える	ファッションが好きという思いを起点に、着なくなった服を利活用した作品を制作した。また、その過程を通して、ファッションと自己表現の関係性について考察した。
12	教育	1人1人自分に合った方法で教育を受けるには？	教育や福祉に関連する方へのインタビューや文献調査を通して、非行や不登校に関する課題を分析し、より良い学校教育のあり方について考察した。
13	音楽	どうしたら J-POP は世界で売れるようになるのか？	J-POP に興味を持つ人が増え、より売れるようになるための方法を、K-POP の事例等を収集した比較調査を実施して検討した。
14	キャリア	マイプロジェクトでアクションをすることは？	マイプロジェクトを通して、いくつかの分野に関して実際にアクションを行い、探究することやアクションすることの価値について考察した。
15	福祉	悩んでいる人が生きやすい世界を創るために～ラジオの可能性～	悩みを抱えている人が生きやすい環境をつくるために、教育や福祉に携わる方々へのヒアリング調査を行い、学校内での校内ラジオを実現した。
16	キャリア	人生について	アンケートやヒアリングを通して、後悔しないための人生の歩み方や、他者と良好な人間関係を築く方法について考察した。



17	福祉	幸せとは何か？	福祉に携わる方へのヒアリングやアンケート調査を通して、幸せの定義を考え、自身がより良く生きる方法について考察した。
18	福祉	発達障害と向き合う	保育や福祉に関わる方へのヒアリングを通して、発達障害を持つ子どもと保護者への関わり方について考察した。
19	歯科	目指せ！8020！！	歯科衛生士や研究者へのヒアリングを通して、キシリトールが虫歯予防に与える影響について考察した。
20	防災	防サイクルPart 2	災害時に避難所に避難しない人の状況についての調査活動を行い、災害で失われる命を少しでも減らす方法について検討した。
21	美容	メイクは自信につながる	自身のコンプレックスを克服したいという思いからメイクについて探究し、メイクを用いた心理学実験を行った。
22	自然	楽しくキャンプ	オリジナルのキャンプを企画、実施し、チームで協力することや、自分の責任を果たすことの重要性について考えた。
23	キャリア	自分の人生をより良くするために	マイプロジェクトの活動で複数のアクションを行うことを通して、自分の人生をより良くするための方法について検討した。
24	服	服について	ファッション系の仕事に就きたいという思いを実現するために、オリジナルの服作りに挑戦した
25	写真	初心者の写真撮り	自身のカメラ撮影技術向上のために、カメラマンへのヒアリング調査等を行った。また、実際に自分で撮影した写真をコンクールに応募した。
26	地域活性	地域活性化のための土づくり～高校生コーディネーターとしての挑戦～	震災やコロナの影響で薄れてきている地域のつながりを復活するために、地域住民とマイプロジェクトに取り組む高校生をマッチングする活動を行った。
27	海洋生物	ウミガメについて	ウミガメの生態や、ウミガメの保護に関する取り組みの問題点を、研究者等の協力を得ながら考察した。
28	環境	藻場について	磯焼けによって起こる問題について調査し、課題解決に向けた第一歩として海藻を育てるための実験を行った。
29	動物	猫にとって栄養のある食事づくり	猫の保護活動を行っている方や、動物園の飼育員さんへのヒアリングを通して、猫にとって本当に栄養のある食事について考え、実際に試作した。

30	医療	理学療法について	自身の将来の夢につながる知見を広げるために、理学療法士へのヒアリングを行った。
31	環境	海とゴミ問題～海洋プラスチックごみについて～	海洋生物の生態系を守りたいという思いから、海ゴミ問題の実態を調査し、海ゴミを利活用したグッズを制作した。
32	昆虫	トンボの翅の秘密とは？	トンボと、トンボ以外の数種類の昆虫を実際に捕獲・写真撮影し、翅の違いについて観察を行った。
33	アート	イラストを上達させるには？	イラストの技術向上を目指して、たくさんの作品を描いた。また、イラストを専門に学ぶ専門学生等へのヒアリング等を行い、自身の趣味を仕事にしていく方法を模索した。
34	スポーツ	どうしたらバトミンソンのスマッシュは速くなるのか？	自分のプレーを動画で撮影して、速いスマッシュを打つために必要な要素について分析した。
35	交通 アート	地域に残る鉄道	鉄道模型イベントや個展イベントの開催を通して、三陸鉄道が持つ魅力について考察し、地域の鉄道を後世に継承していく方法を検討した。
36	栄養	化学で考える食事	地域の食生活の課題を解決するために、食生活改善推進員や、先進的な事例を持っている行政へのヒアリング、栄養素の働きを分析する実験等に取り組んだ。
37	スポーツ	筋肉をつける	自身の筋力を向上させるために、効果的なトレーニングや栄養補給の方法について検討した。
38	心理	自分の中の創作意欲	何かをつくることに対する意欲や集中力を持続させるための方法について模索した。
39	ビジネス	起業について	自身の生い立ちから、規格外野菜の廃棄問題に興味を持ち、地域に貢献するためのビジネスモデルを検討した。
40	栄養	食とスポーツ	食事を通じたスポーツのプレー向上を目指して、専門家等へのヒアリングを参考に、プロテインを使ったオリジナルクッキーを試作した。
41	心理	興味について	物事に興味を持てない自身の特性と向き合うために、小さなアクションを繰り返すことを通して、物事に興味を持てる方法を模索した。
42	ジェンダー	LGBTQについて	ジェンダー的な特性で生きづらさを抱えている人を支えるための方法について、当事者へのヒアリング等を通して検討した。

43	観光	ますと乃湯について	地元の温浴施設の魅力を多くの人に知ってもらうために、実際に何度か通うことを通して、魅力の要素について考察した。
44	福祉	双子を持つ親のために	自身が双子の当事者という経験から、多胎児家庭の状況や支援策について興味を持ち、行政へのヒアリングや双子の当事者同士が語り合う「双子座談会」を実施し、効果的な支援方法を検討・提案した。
45	医療	看護の知識を広げる	自身の将来の夢につながる知見を広げるために、今後師へのヒアリングを行った。
46	スポーツ	バドミントンのメンタルについて	試合中に焦ってミスをしてしまう自身の課題を解決するために、メンタルを鍛える方法について調査した。
47	交通	堤防の利用について	舗装されていない堤防の問題の解決方法を検討するために、行政の担当者へヒアリングを行った。
48	スポーツ	バスケットボールの人気を上げるためには	バスケットボールの人気を上げる方法を検討するために、地元のバスケット関係者や、プロバスケットチームの関係者にヒアリングを行った。
49	スポーツ	ジャンプ力を向上させるためには	自身のジャンプ力を向上させるために、効果的なトレーニングの方法について検討した。
50	ゲーム	「ゲームが持つコミュニケーション」の可能性について	ゲームを通じて多くの人と交流できるようになることを目指して、自身が制作したゲームを用いた交流活動を行った。また、特に不登校傾向にある子どもたちの役に立てるような交流方法を模索した。
51	国際	世界クイズ	海外の様々な国に関する情報を多くの人に知ってもらうためのワークショップイベントを開催した。
52	スポーツ	スポーツ人口を増やすためには	スポーツ人口を増やすための方法を、アンケート調査等を通して検討した。
53	宗教・哲学	生と死 死を迎える人と周囲の影響	お寺の住職さんやカウンセラーさんへのヒアリングを通して、「生きることと死ぬこと」という答えのない問いに対して向き合い、その意味について考えた。
54	スポーツ	大槌町のトレーニング人口を増やすためには	トレーニング人口を増やすための方法を、アンケートやヒアリング調査を通して検討した。
55	動物	チワワの好き嫌いを克服させるためには	家で飼っているチワワが市販のドッグフードを食べてくれないという問題を解決する方法を、ペットショップの店員さんへのヒアリング内容を参考にして模索した。